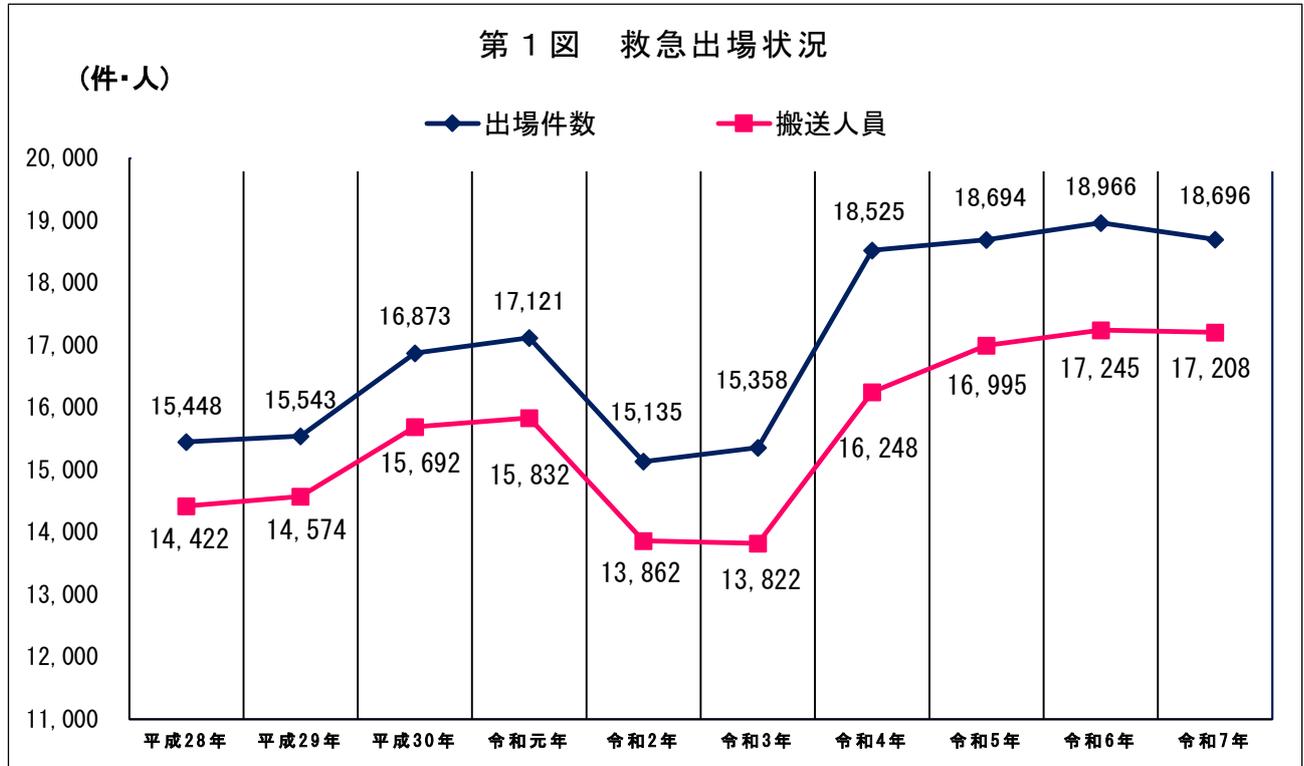


令和7年（1月～12月）における救急概況

※ 本統計中の全ての表・図における合計値は、端数処理の関係で100%とされない場合があります。

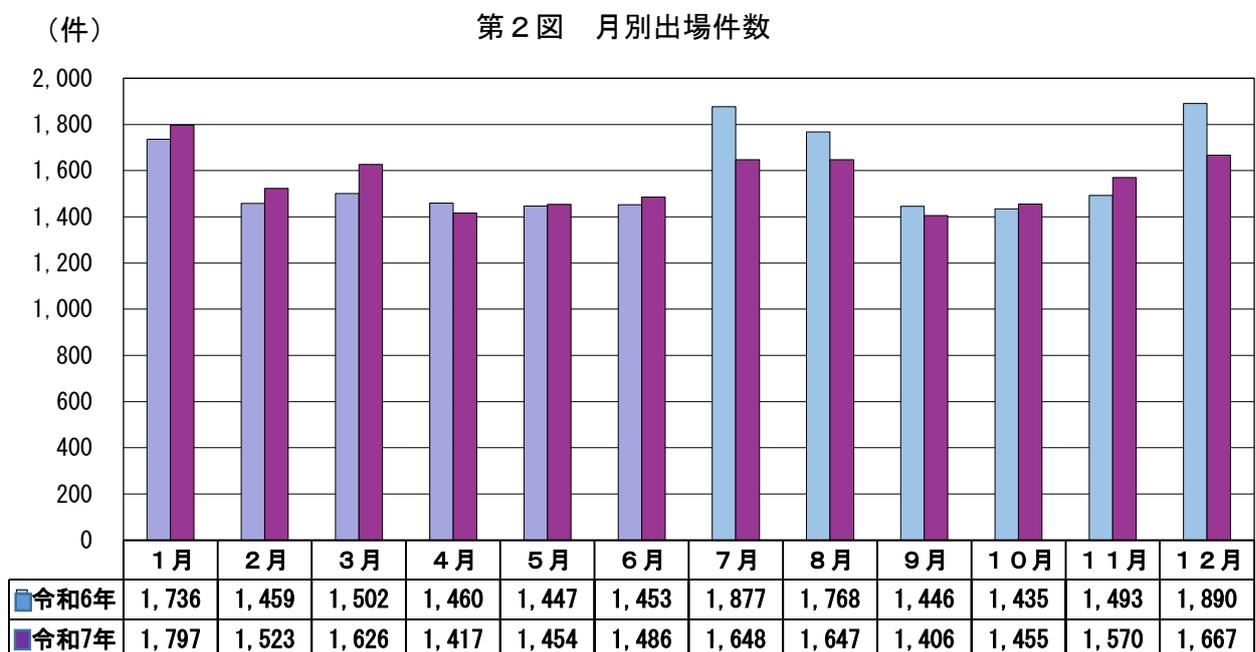
1 救急出場状況

令和7年中の救急出場件数は18,696件で、前年と比べて270件減少している。これは、1日平均51件（28分に1件）の割合で救急車が出場していることになる。搬送人員は17,208人で、前年と比べて37人減少している。（第1図）



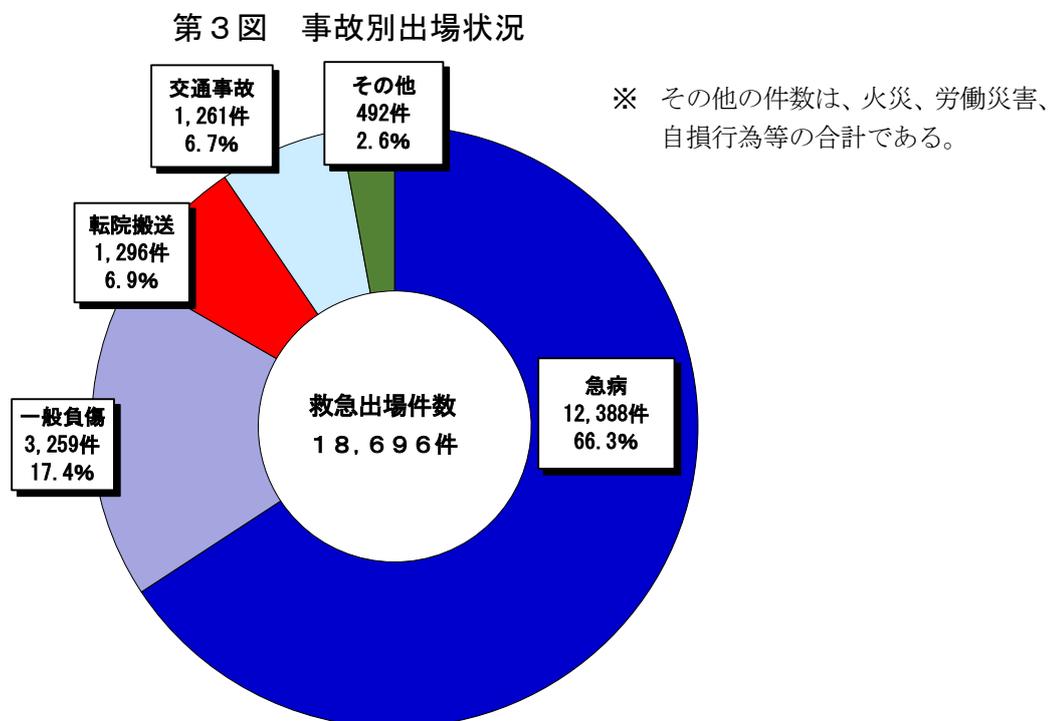
2 月別出場件数

救急出場件数を月別で見ると、1月が1,797件で最も多く、次いで12月が1,667件、7月が1,648件の順となっている。（第2図）



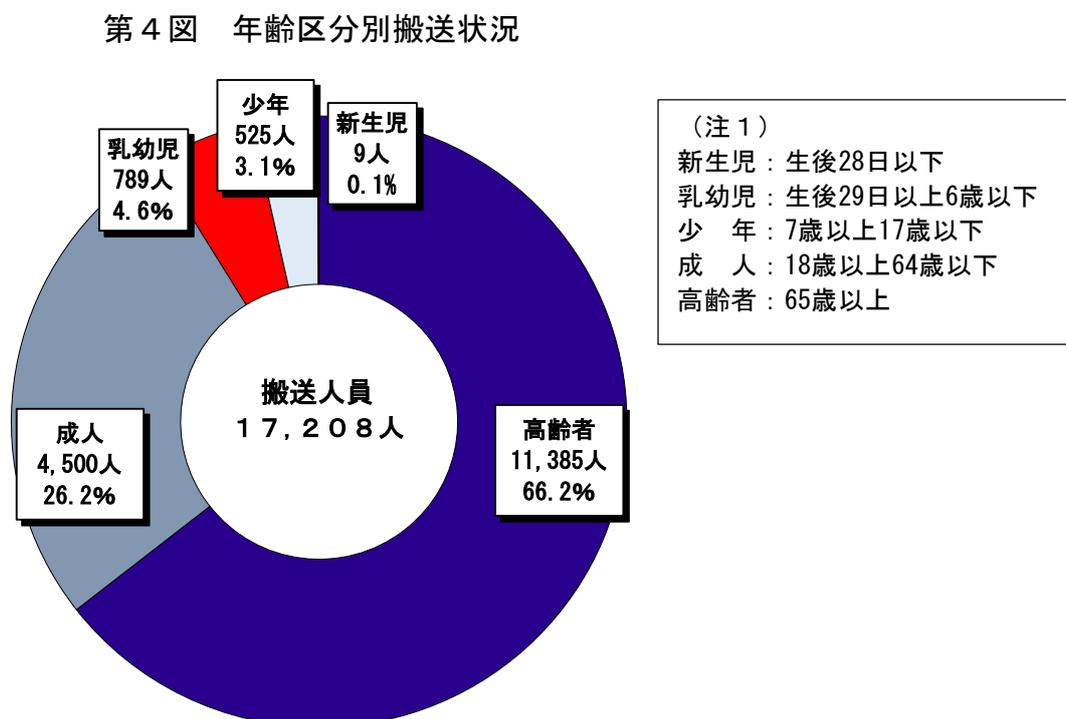
3 事故別出場状況

救急出場件数を事故種別ごとにみると、急病が12,388件、一般負傷が3,259件、転院搬送が1,296件、交通事故が1,261件となっており、これら4種別で全体の97%を占めている。(第3図)



4 年齢区分別搬送状況

搬送人員を年齢区分別にみると、高齢者が11,385人で全体の66%を占めており、成人が4,500人、乳幼児が789人、少年が525人、新生児が9人の順となっている。(第4図) (注1)



5 診療科目及び管内外別搬送状況

搬送人員を診療科目別にみると、内科が5,122人、脳神経外科が2,860人、整形外科が2,590人の順となっている。

搬送先医療機関については、全体の78%を市内へ、22%を市外へ搬送している。
(第1表)

第1表 診療科目及び管内外別搬送人員

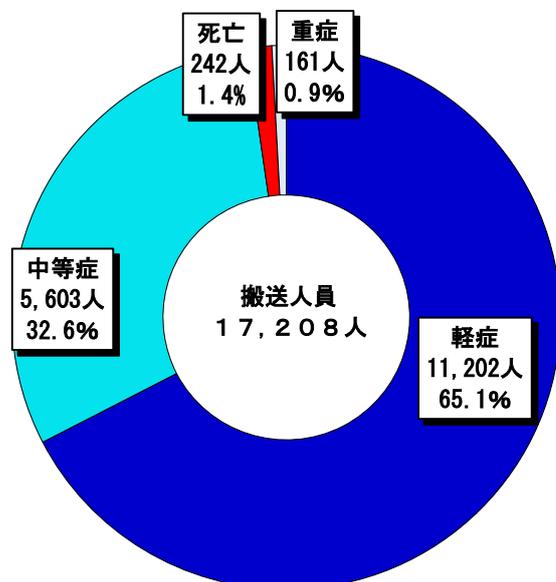
	八尾市内	八尾市外	合計(人)
内科	4,230	892	5,122
循環器科	1,172	239	1,411
呼吸器科	1,241	420	1,661
小児科	277	478	755
外科	329	175	504
整形外科	2,200	390	2,590
脳神経外科	2,248	612	2,860
産婦人科	38	103	141
泌尿器科	227	86	313
神経内科	1,331	192	1,523
その他	163	165	328
合計	13,456	3,752	17,208

※上記表中の「その他」とは、上記診療科目以外の全てのものをいう。

6 傷病程度別搬送人員状況

搬送人員の内訳を傷病程度別にみると、軽症が11,202人、中等症が5,603人、重症が161人などとなっている。(第5図)(注2)

第5図 傷病程度別搬送人員状況



(注2)

死亡：初診時に死亡が確認されたもの
 重症：傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
 中等症：傷病の程度が重症または軽症以外のもの
 軽症：傷病の程度が入院加療を要しないもの

※傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれている。

7 応急手当の普及啓発活動

救急車の要請から現場に到着するまでの時間は、約9.5分である。

救急車が現場に到着するまでの間、救急現場近くの住民等による応急手当が適切に実施されれば、大きな救命効果が得られる。

消防本部では心肺蘇生法の普及啓発活動を積極的に推進している。(第2表)

第2表 令和7年中普及啓発活動状況

区分 講習会名	開催回数 (回)	受講人数 (人)	講習内容
普通救命講習Ⅰ	18	516	心肺蘇生法・AED・止血法の3時間講習
普通救命講習Ⅱ	0	0	普通救命講習Ⅰの内容に実技試験及び筆記試験を加えた4時間講習
普通救命講習Ⅲ	7	166	心肺蘇生法(主に小児・乳児・新生児)・AED・止血法の3時間講習
上級救命講習	2	42	普通救命講習の内容に加え小児・乳児の心肺蘇生法、外傷の手当法の訓練を実施した後、実技試験及び筆記試験を行う8時間講習
応急手当訓練	85	3,492	3時間に満たない心肺蘇生法・AED・止血法の講習
計	112	4,216	

〈参考〉

消防本部では、ご自宅や仕事場でも応急手当を学んでいただけるよう、動画「WEB自主防災(心肺蘇生法とAEDの使用法)」を作成し、YouTube 八尾市公式チャンネルで公開しています。

【動画イメージ】

【動画QRコード】

